



2021年12月 日

桜井谷小学校

6年図工通信 第6号

発行者：

名画の模写

しばらくの間、図工室の中に掲示していた40枚の名画たち。図工室に入ってくる度に、「ゴッホや〜!!」「モナリザや〜!!」「見たことある〜!!」「これはどの学年がするんですか？」などと興味をもって来ていました。

そして、子どもたちに重大発表。

「あの名画から1枚選んで、模写するんだよ。」

「え〜!!無理やろ〜!!」

心配することはありません。秘密兵器（秘密兵器の正体は、ぜひお子さんに聞いてみてください）を使えば、そっくりそのままほぼ再現することができるのです。もちろん、絵に向き合う根気と集中力が何よりですが。

まずは、絵を選ぶことからスタート。残念ながら、クラスの中では同じ絵を数名が選ぶことはできません。誰一人友だちと絵が被らないように選ぶため希望をとり、希望が被った場合にはじゃんけんで決めました。希望通りの絵が描けないことに、モチベーションが下がってしまった子どもいましたが、みんな最初に提示したルールを守って全員1枚ずつ絵を選ぶことができました。（希望通りではなかったみなさん、最後までよく頑張って描き上げました!!）

画用紙を配った時から、「どこから描き始めたらええねん!!」という子どもたちの不安は溢れていました。ポイントは、「習字の時の

ように」。コツを掴み出すと、持っているクレパスの色を重ねたり伸ばしたりしながら、見本の色を再現していく姿が増えてきました。子どもたちの取り組む様子を見ると、「見え方」は人それぞれだなぁと改めて感じさせられました。配置や色の見え方は、自分が見えているものが全てではないということもお互いの絵を見ながら感じてくれていると嬉しいです。B4サイズの画用紙に模写する活動に、何度も投げ出したり気持ちが折れたりしている子どもいましたがなんとか仕上げることができました。

絵を描き終えた子から、自分の作品を飾る額縁も自分で作ります。カッターナイフを使って段ボールをくりぬき、くりぬいた段ボールを使って周りに飾りつけをしていきます。シンメトリーを意識して沢山のパーツを慎重に並べる子どもいれば、「シンプルがいい!」と控えめな飾りつけで仕上げる子どもいました。仕上げに金色の絵の具をハケで塗って雰囲気を出します。裏に麻紐と段ボールを短冊にしたもので作ったパーツを両面テープで貼り付ければ吊り下げ式の額縁が完成します。絵をはめた作品をズラリと並べると、正に雰囲気は美術館!2部作で仕上げた今回の作品。一生懸命、作品と向き合ってくれる子が多くて嬉しかったです。何でも買ったら手に入る時代ですが、身近な物を材料にして作品を作ることができるということを、図工を通して感じてほしいです。

次に取り組み始めている作品は「思い出BOX」。彫刻刀を使って、自分でデザインした絵を彫って箱を作ります。この作品が、小中学校生活最後の図工の作品になる予定です。今、それぞれどんなデザインにするか悩んでいるところです。彫刻刀の使い方や色付けの仕方など、これまでとは違う少しレベルの高い方法を用いて作品を作っていきますので、最後まで頑張ってください。
